

203に対する質問 (東京警察) 田中 敏晴

contact sector scanning による断層写真が、果して大横径部分のものであるか、否か、どの様にして判定していただけるか、お訊ねしたい。

答弁 (順天堂大) 竹内 久弥

児頭の輪廓が、ゆがみがなく、全体にきれいに描写されている場合に横断面をみていると考え、その最大部分を描写すればこれを大横径と考える。

199—203に対する質問 (国立第2) 磯野 光志

① marker の換算法

② Out put gain (A-Scope) の関係について御教示願います。

答弁 (東京警察) 須田稲次郎

1) marker は1cm間隔に入れ、これは日本無線製 test piece を用いて、正確に入るが、これの音速は1500m/sであり、胎児児頭の音速は1520 m/sec であるので、この点からの測定上の誤差は1%内外であります。

2) Aスコープ法装置の条件は gain 5.5, out put 0~1.0, rejection O. です。

203に対する質問 (慶応大) 柳田洋一郎

帝切された場合の誤差の範囲は如何ですか。

答弁 順天堂大 竹内 久弥

帝切児と経膈分娩児との測定誤差の比較は特に行っていないが、帝切児の場合でも或る程度の誤差は生じている。その理由は実測値にも誤差があるからであり、経膈分娩経過による児頭変形程度と測定値の誤差との間に大きな差はないものと考えている。

204. 脳波よりみた妊娠、分娩と脳活動

(横浜市大) 土橋 招一

妊娠、分娩と脳活動との関係を追究した研究は極めて少く、しかも妊娠、分娩に関係するホルモンの分泌量の激変に対する視床下部、下垂体系活動の対応機構に関しては殆んど研究されていない。そこで成熟雌ウサギを用いて慢性同心電極を脳内諸部位に植込み、脳波を指標として、妊娠、分娩、就中分娩前後における脳活動について追究した。

(1) 脳の興奮性の変動について：妊娠経過に従って、中脳部網様体汎賦活系の高頻度刺激による大脳皮質前頭部における覚醒賦活閾値及び中隔野に低頻度刺激を与え、EEG afterreaction 誘発閾値を測定した結果、前者は分娩前2—3日に最高値を示し、その後分娩開始時期に向って急降傾向を示した。後者は妊娠日数の進行と共に漸昇し分娩直前頃に最高値に達し、分娩後は急降

した。

(2) 自発性 EEG afterreaction の発現について：分娩開始時期に近づくにつれてこの発現量は次第に減少し0—1/2倍となり、分娩後は急激に増し非妊娠時の1.5—3.0倍に達した。

(3) EEG pattern の変化について：妊娠初期に大脳皮質前頭部に long lasting spindle bursts がみられ、妊娠中期からは縁辺部にもこれがみられた。皮質下では大部分の部位が妊娠日数の進行とともに活動水準の低下をきたすにもかかわらず、海馬では上昇の傾向を示した。正中隆起部附近では速波成分の比較的増加を妊娠中期にみ、分娩前2—3日に再び増加の傾向を示した。中脳部網様体では妊娠中期以後徐波成分の増加を認めた。

以上、脳諸部位の電氣的活動は、妊娠に伴うホルモンの変動の影響を受けてその興奮性に高低を生じ、これが下垂体前葉の gonadotrophin 分泌に対する feed back 的調節に影響を及ぼすことが推定される。特に分娩開始数日前に既に脳の興奮性が高まっていた、脳は分娩準備態勢に移行しているということは興味深い。

205. 乳汁分泌抑制に対する両性ホルモ剤とキモタブ錠併用による効果に就いて

(葛飾赤十字産院) 河井 儀三、竹石 芳光

乳汁分泌抑制を必要とする褥婦70例を対象とし、46例に両性ホ剤デボ(テストステロン・エナンテート65mgとエストラジオール・ワレリアナート4mg)筋注と同時にキモタブ錠(1錠中にプロメライン2万単位と結晶トリプシン2500単位)6錠宛、分三で5日間、内服投与し、5日目に判定した。尚24例には両性ホ剤デボ筋注のみを行つた。

成績

1) 分娩直後の投与例の効果

投 与 群	例数	効 果 判 定 例 数		
		著 効	改 善	不 変
		有 効		
両性ホ・デボ注 キモタブ錠併用	35	28 (80%)	4(11.4%)	3(8.6%)
		(91.4%)		
両性ホ・デボ注 のみ	17	12(70.6%)	2(11.8%)	3(17.6%)
		(82.4%)		
非授乳無処置群 (対照)	10	2 (20%)	1 (10%)	7 (70%)
		(30%)		